

株式会社図書館流通センター

指定管理二期目の図書館運営について

(令和3年4月1日～令和8年3月31日)

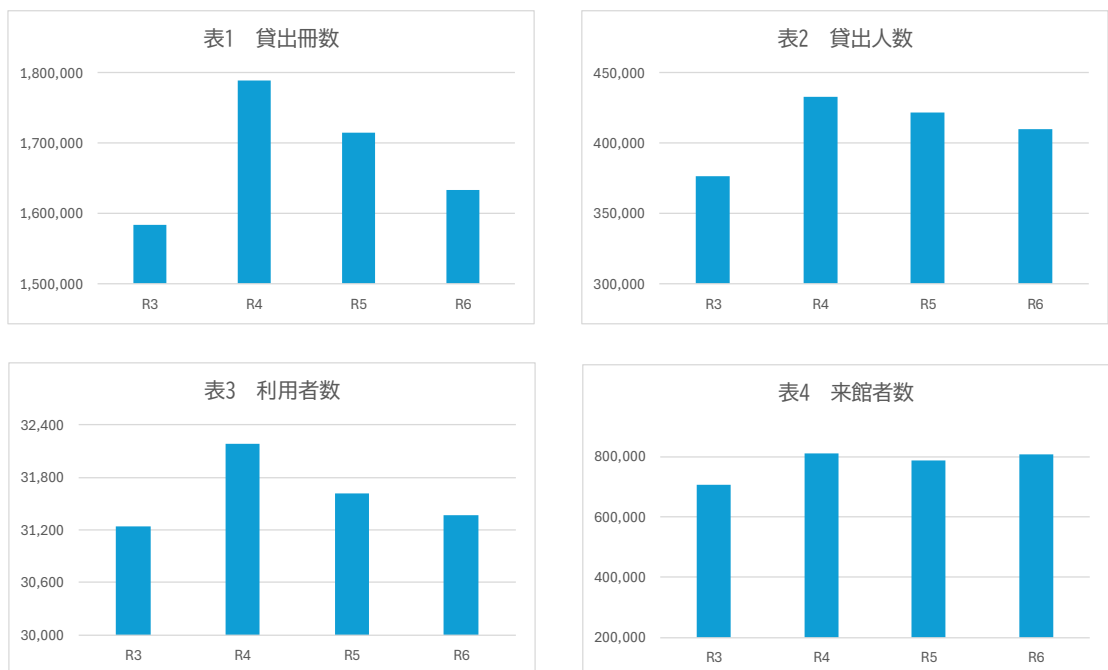
- 1 利用状況
 - (1) 利用促進、利用者増への取組み
 - (2) 新しい図書館サービスの利用状況
- 2 だれにも「やさしい」図書館への取組み
 - (1) 高齢者や障害者向けのコレクションの充実
 - (2) 来館が困難な障害者向けサービスの開始
- 3 いつでも、どこでも利用できる図書館への取組み
 - (1) ひがしおおさか電子図書館の導入
 - (2) 東大阪市電子申請システムによる新規利用申込
 - (3) 開室日の増加
 - (4) 出張図書館の開催
- 4 地域文化の継承への取組み
- 5 東大阪市立図書館基本構想への取組み
 - (1) 学校連携への取組み
 - (2) ビジネス支援への取組み
 - (3) スポーツ・文化への取組み
 - (4) 子育て支援への取組み

1 利用状況

(1) 利用促進、利用者増への取組み

既存利用者だけでなく潜在利用者への働きかけを行うことで市民に必要とされる図書館を目指して、イベント、新しいサービス、広報活動に取り組みました。利用促進、利用者増に関する目標として、①貸出冊数 215 万冊、②貸出人数 51 万 5 千人、③利用者数 4 万 1 千人の達成目標を定めました。

実績は下図の貸出冊数(表1)、貸出人数(表2)、利用者数(表3)の経年推移をご覧ください。

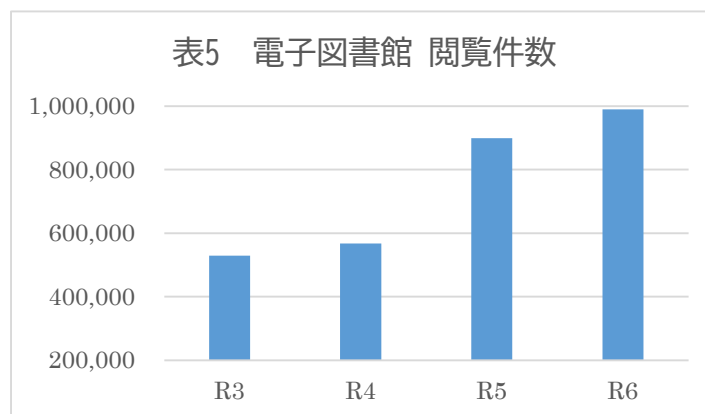


新型コロナウイルスによる休館等の対応が令和3年度まで続き、また、令和5年度と令和6年度は花園図書館が大規模修繕のため2週間休館しました。その影響もあり、貸出冊数、貸出人数、利用者数全てにおいて、目標値を達成することはできませんでした。しかし、各種イベント開催を中心に館内・館外での活動を通じて来館者数は、コロナ禍前の状態に戻ってまいりました。

この5年間を総括すると、コロナ禍で離れていった利用者呼び戻し、また新たな利用者を獲得するためにはどうすればよいのかを考えながら図書館サービスの再構築に取り組んだ期間でした。

(2) 新しい図書館サービスの利用状況

令和3年4月1日より、新しい図書館サービスとして「ひがしおおさか電子図書館」がスタートしました。開始した当初は、図書館への来館が難しい状況もあり、非来館型サービスとしてご利用いただきました。また、東大阪市立小中学校に導入された GIGA スクール端末の活用方法の一つとしても役立ちました。電子図書館についてはその後も整備を続け、令和4年度から学校での朝読での利用等を主目的に読み放題パックを導入し、また、図書館内だけでなく市内各所に出向いて体験会を行うことでその周知に努めました。その結果として、下図の通り利用増となっております。



令和3年11月からは、新たな図書館サービスポイントとして、布施駅前と楠根のリージョンセンターにおいて月2回の出張図書館を開始しました。まだまだ市民への周知活動は必要ですが、令和6年度で各40人前後の市民にご利用いただいております。

令和4年5月からは、非来館型サービスの拡張として「東大阪市電子申請システム」を利用した図書館の新規利用申込を開始しました。「ひがしおおさか電子図書館」については、このサービスを利用することで図書館に来館することなく利用できるようになりました。SNS等での定期的な周知活動もあり、多い年で年間500件ほどの登録があります。

2 だれにも「やさしい」図書館への取り組み

東大阪市立図書館では、以前から視覚障害者向けサービスとして「朗読ボランティアやまびこ」の協力を得て、音声 DAISY 資料の作成や対面朗読サービスを実施しております。2019年の「読書バリアフリー法」や2024年の「改正障害者差別解消法」を受けて、読書に障害のある方への取り組みを行いました。

(1) 読書に障害のある方向けのコレクションの充実

永和図書館では従来からある、コレクションの充実を図るとともに、館内中央部にバリアフリー紹介コーナー及び読書に障害のある子どもたち向けの「りんごの棚」を設置しました。子育て支援がテーマの四条図書館にも「りんごの棚」を設置しました。

(2) 来館が困難な利用者向けサービスの開始

「宅配サービス」や「郵送貸出サービス」を継続運用しました。また高齢者施設での出張読み聞かせも実施しました。

3 いつでも、どこでも利用できる図書館への取り組み

(1) ひがしおおさか電子図書館

時間と場所を気にすることなく利用できる電子図書館サービスを導入しました。

(2) 東大阪市電子申請システムによる新規利用申込

いつでも、どこからでも新規利用申込ができるようになりました。「利用カード発行なし」を選択した場合は、図書館に来館することなく手続きを完了することが可能です。

(3) 開室日の増加

大蓮分室は日曜日、石切分室は土曜日を開室し、利用者要望に応えました。

(4) 出張図書館の開催

新たな読書ポイントとして、布施駅前リージョンセンター（第1、第3金曜日）、楠根リージョンセンター（第2、第4金曜日）の市民プラザにおいて出張図書館を開催しています。また、毎年10月頃には、まちライブラリーや読み聞かせボランティアグループと連携して、東大阪市文化創造館でも開催します。

4 地域文化の継承への取り組み

デジタルアーカイブを含めた地域資料、行政資料の公開場所として「ひがしおおさか電子図書館」を活用しています。令和7年度は、万博関連のリーフレットを掲載し、令和8年1月からは、広報紙「東大阪市政だより」や生涯学習情報誌「まなびにトライ！」の掲載も始めました。

5 東大阪市立図書館基本構想への取り組み

図書館基本構想における重要テーマとして、学校連携、ビジネス支援、スポーツ・文化、子育て支援の4点にフォーカスし、学校連携は永和図書館を中心に全館、ビジネス支援は永和図書館、スポーツ・文化は花園図書館、子育て支援は四

条図書館を中心に取り組みました。

(1) 学校連携への取り組み

令和3年度に配置された学校司書との連携を図るため、学校司書連絡会において学校司書と情報共有するとともに、図書修理や読み聞かせなどの研修を実施しました。また、各学校及び留守家庭児童育成クラブには、団体登録及び団体貸出サービスの案内を送付しました。貸出実績は表6の通りです。以前の統計では含まれていた保護者団体や地域団体などを明確に区別して統計上の学校団体を再定義しましたので、令和6年度より学校団体として集計値は一旦減少しましたが、学校司書を中心に利用は増加傾向にあります。

また、学校への資料貸出だけでなく、出張おはなし会、出張ブックトークなど学校の読書活動や学校図書館の支援活動に取り組みました。

(表 6)

(単位：冊)

R3	R4	R5	R6	R7 ※	計
6,062	7,894	9,282	7,002	7,391	37,631

※令和8年1月末時点

さらに、自らの疑問や課題を発見し、様々な情報を取得、整理、分析し、その解決を図る能力の育成を目的として、令和5年度より東大阪市立小学校の児童を対象に「東大阪図書館を使った調べる学習コンクール」を開催しております。応募状況は、令和5年度は18校87人、令和6年度は19校108人、令和7年度は21校254人と増加しております。

(2) ビジネス支援への取り組み

ビジネス支援の基礎たる資料の充実を図っております。これは単に資料を追加するだけではなく、古くなった情報を排除して情報の鮮度を保つことも含まれます。また、紙資料だけでなく、オンラインデータベースとして、JRS 経営情報サービス、日経テレコン 21、官報情報検索サービスも提供しております。

ビジネス支援資料の経年蔵書数

(単位：冊)

年度	R3	R4	R5	R6	R7 ※
所蔵数	3,861	3,826	4,094	4,213	4,540

※令和7年12月末時

商工会議所との連携強化もかねて会員登録を行い、会員企業との交流会などを通じて図書館の周知を図るとともに共催イベントを実施しました。また、図書館周知のために東大阪商工月報へ広告を掲載しております。さらに、資料の利用促

進を図るため、商工会議所が開催する講習会等での関連書籍を掲載したブックリストの配布も行っております。

(3) スポーツ・文化への取組み

花園図書館の近隣には、ラグビー場を中心としたスポーツ施設が整備されており、花園近鉄ライナーズを中心としたプロチームがあります。花園図書館では各施設、団体と連携するとともに、ラグビーを中心にスポーツ関係資料の充実を図っており、令和6年度にはラグビーコーナーを常設しました。また令和7年度からは健康情報コーナーを拡充するとともに、健康情報データベース「ヨミドクター」を提供しています。

文化面においては、司馬遼太郎に関連する資料の充実を図っております。その中には未整理の資料が多くあったため、二期目においてそれらを整理分類しました。令和5年度には函館市中央図書館と連携し、「司馬遼太郎 100 周年 図書館交換展示」も行いました。

(4) 子育て支援サービスの取組み

子育てに関する資料の充実を図りながら、子育て中の利用者が気軽に利用できるようにする環境を整えました。乳幼児サービスとして、子どもと保護者のふれあいを促し、子どもの言葉と心を育て、子どもと保護者のきずなを深める、という子育て支援の方針のもとで、行事やイベントを企画開催しました。

小さな子どもを持つ保護者に周囲に気兼ねなく図書館を利用してもらうためのイベントとして、令和3年度より「ベビータイム」を開始し、定着してきております。令和6年度の実績では、ベビータイム関連イベントの開催回数が44回、のべ参加人数が648人となっています。

主な取組み施策としては、以上です。東大阪市立図書館における株式会社図書館流通センターの5年間の図書館運営において、東大阪市図書館協議会の委員のみなさまには大変お世話になりありがとうございました。